



第 55 号

群馬大学工業会千葉県支部便り

発行日：令和 7 年 3 月吉日
発行責任者：千葉県支部長
編集：千葉県支部役員会事務局

♪♪ 2025 年度支部総会開催案内とお願い ♪♪

千葉県支部支部長 増田善一（49P）

群馬大学工業会千葉県支部会員各位様

本年も皆様と有意義な活動を実施いたしたく、よろしく御協力をお願いいたします。

千葉県支部の活動は中断の期間が有りましたが、支部活動が 2001 年に再開され、2005 年「わたらせ」が創刊され現在まで継続して発行され 20 年が経過しました。 昨年は JFE 工場見学会へ 30 名ほどの参加があって、会員間の世代を越えた暖かい交流をすることができました。昨年の工業会の社員総会（高崎市）前日に、初めての試みとして理事長杯ゴルフコンペが開催され当支部会員の参加もありました。

本年の総会について：

本報「わたらせ」に掲載のとおり、4 月 19 日午後、支部総会に加え、来賓の中島工業会理事のお話、および、粕谷教授による記念講演を予定しております。また、終了後には懇親会を開催いたします。今回、初の試みとしてオンライン会議用の ZOOM でも参加できるようですが、役員が自前の機器で可能な範囲での配信の提供とします。今後も継続する心づもりで、後日、ご意見をいただき内容の充実を図ってみたいと考えております。ご参加をよろしくお願いします。

千葉支部の近況について：

ここ数年、役員数の減少、見学会やゴルフ「わたらせ会」参加者減少などに対応しながらの運営が続いております。本年は運営形態の見直しや工業会からの運営財源の補填などの将来を見据えた支部運営の改善検討を進めたいと考えており、総会で皆様のお考えをお聞かせいただく時間を設定しております。

工業会の動向について：

昨年工業会が法務局から「みなし解散団体」とみなされ、新たな「一般社団法人群馬大学工業会」としてスタートしました。新定款を検討中ですが、社員総会等での議決に関して、「代議員制」を新設するようです。現在の工業会と支部の関係では、各支部は地区ごとに役員を自ら決めて、独自の活動を行っています。皆様は会費を工業会へ納入され、お一人お一人が工業会会員として登録されております。工業会会員としての活動に関しては支部の関与できません。

いずれ、皆様に代議員選挙の投票依頼が工業会から有るものと思われます。年後半になろうかと予想されますが、工業会報やお時間が有りましたら工業会ホームページで確認していただきたいと思います。

今回、総会に工業会理事が来賓として参加されますので、本件についてご説明をされるかと思います。

本年が会員各位さまにとって良い年でありますように祈念してご挨拶いたします。以上



2025 年度総会開催案内



場所：千葉市生涯学習センター、3階 研修室2 日時：4月19日（土）

13：00～14：00：支部長挨拶、総会議事 2024 年度活動報告、2025 年度活動計画、その他

14：00～14：30：来賓（中島工業会理事）挨拶

14：30～15：00：懇談と休憩

注：ZOOM 入場は 12：50 より可能となります。



記念講演会（一般公開）時間：15：00～16：30

＜海洋生分解性プラスチックの研究開発＞

講師：粕谷健一教授 群馬大学大学院食健康科学研究科長

講演概要：

プラスチックは現代社会を支える重要な材料です。しかし、原料や製造エネルギーとして化石資源を大量に消費します。また、プラスチックごみの増加による環境汚染も全世界的な問題になっています。これらの問題の解決策として、バイオプラスチックが環境調和型材料として注目されています。

来るべき持続可能な社会の構築を目指して、バイオプラスチックの開発に取り組んでいる研究の状況と今後の課題についてお話しします。



＜懇親会＞

粕谷教授と中島工業会理事を囲んで参加希望者による懇親会を次の通り行います。

会場：店名「しあわせ港」総会会場より徒歩約 10 分、JR 千葉駅近く

時間：18 時より約 2 時間、参加費：一人 5,000 円

♪♪ 2024 年度支部見学会の報告 ♪♪

諏訪原 俊一（46K）

今年の見学会は 11 月 26 日（火）に JFE スチール工場見学をメインに千葉港めぐり（遊覧船/工場夜景クルーズ）、懇親会をオプションとして実施しました。

今回は広く案内をした結果、平塚支部長の倉林様（44C）、東京連合支部長の伊藤様（47W）、会員のご家族・知り合いの方々を含めて女性 4 名、男性 24 名の総勢 28 名の参加がありました。

12 時 30 分に蘇我駅西口に集合し、貸し切りバスにて JFE スチール（株）東日本製鉄所（千葉地区）に向かいました。（JFE スチール（株）は 2003 年に川崎製鉄（株）と日本鋼管（株）が統合して設立された会社です。）当製鉄所は、戦後、我が国で初めて建設された銑鋼一貫製鉄所（鉄鉱石から銑鉄、鋼材を経て最終製品までを作る作業が一貫して行われる製鉄所のこと）で、東京ドーム 170 個分ほどの広さがあり、東工場、西工場、生浜地区の三つの区域に分かれています。

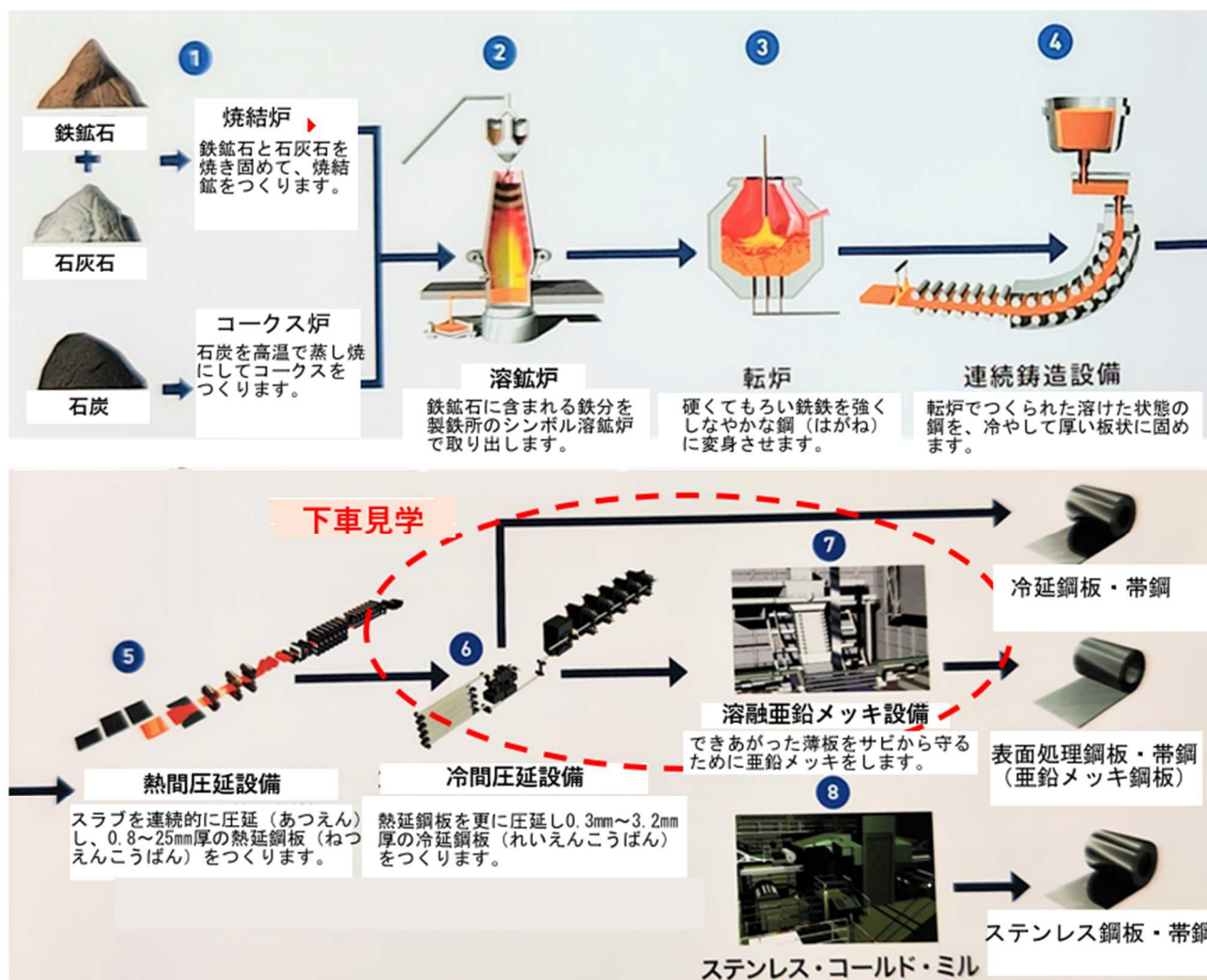
見学は標準コースの 120 分で行って頂きました。

- ① 15 分 会社・製鉄所概要説明
- ② 15 分 製鉄所紹介 DVD 上映（製鉄の製造プロセスなど）
- ③ 60 分 工場見学

今回は、溶鉱炉は操業休止中にてバス車中からの見学になり、下車しての見学は冷間圧延工場の一か所のみとなりました。

13 時前に当製鉄所に到着し、東工場の区域にある見学センターで 30 分ほど会社の概要等の説明を受けました。13 時 30 分ごろ、ヘルメット、保護メガネ、軍手、説明を聞くためのレシーバーなどを着用してバスに乗り、西工場を経由して、生浜地区にある冷間圧延工場に向かいました。

車内で担当の方のていねいな説明を受けながら、巨大な第6溶鉱炉（高さ108m）、原料ヤード（鉄鉱石、石炭の野積み）、ベルトコンベアーなどを40分ほどの車内からの見学でした。



製造プロセスと見学設備

敷地は極めて広大で埋め立てに10年かかり、場内に通勤用バス停が41箇所、ガソリンスタンドが3箇所ある。14時10分ごろ、生浜地区の冷間圧延工場に着きました。

見学した工場は、横80m・奥行き40m・高さ20m（確かではありません）程の大きさで、入口の横の壁に「溶融亜鉛メッキ設備 冷延部冷延工場」と記されていました。

入るとすぐ左手に亜鉛メッキ鋼板が、幅2m・直径1.5m（確かではありません）のコイル状に巻かれて数十個、出荷待ちの状態で置かれていました。

この工場では熱間圧延工場で作られた鋼板を各種の厚さに伸ばし、さらに亜鉛メッキをして錆びにくい美しい鋼板に仕上げた後から巻き上げて最終製品にしていました。

広い工場内では人影は見え、すべての工程が管理室の中にいる人の遠隔操作で行われていました。さらに、コイル状に巻かれた製品も自動で製品置き場に運ばれるとのことでした。

チェッカープレートの通路を歩き、かつ階段を昇り降りして、レシーバーから流される担当の方の説明を聞いての40分ほどの見学でした。

その後、バスで再び見学センターに戻り、質疑応答の時間がありました。質疑応答は、バスの中でも行って頂きましたが、CO2排出量の削減方法、廃プラスチックの活用の有無、道路で目に付いた散水車の目的など、かなり専門的な内容のものがありました。



見学会参加者の皆さん

15時30分ごろ、当製鉄所を後にして、バスで千葉港に移動しました。

続いて観光船で、千葉中央埠頭を遊覧した後、「千葉みなと駅」近くでの懇親会で、今年の見学会を締めくくりました。参加者の皆様のご協力により、和気あいあいとした見学会でした。



JFE コークス工場夜景（千葉港遊覧船より）

♪♪ ゴルフ同好会（わたらせ会）報告 ♪♪

2024年11月14日、本千葉カントリーにて爽やかな晩秋の天気の下、和気あいあいにプレーを楽しみました。

結果：		GROSS	HDCP	NET
優勝	小池清司（45K）	86	9.6	76.4
2位	鈴木一郎（51C）	86	9.6	76.4
3位	伊藤幸彦（45K）	96	19, 2	76.8
参加者合計 8名（女性2名）				
以上、増田善一（49P）				



編集担当より：本誌「わたらせ」の原版はカラーで作成されていますが会員への郵送版は印刷費用の節約のためモノクロとしています。カラー版を希望する会員はメールにて下記まで申し出ください。返信メールにてカラー版を送ります。本会誌では皆様よりの投稿・情報をお待ちしております。Eメールまたは手書き郵送で下記宛お送り下さい。